

挑戦者としての研究開発を目指して



代表取締役社長 徳山 勝敏
Katsutoshi Tokuyama

2012年6月に内海前社長よりバトンを引き継ぎ、代表取締役社長に就任致しました徳山勝敏です。この度、FBテクニカルニュース2012年号を刊行するにあたり、平素より弊社及び弊社製品をご愛顧頂いている皆さまにご挨拶並びに所信を述べさせていただきます。

2011年3月11日に発生した東日本大震災とそれに伴う福島第一原子力発電所の爆発事故により、これまでの原子力発電を中心としたエネルギー構想は、大きな転換を余儀なくされ、風力発電や太陽光発電などの自然エネルギーの導入促進が必要不可欠となってきています。これら自然エネルギーは、ご承知のとおり不随意的な発電が特徴であり、有効に活用するために蓄電池が重要なデバイスとして期待されています。また、災害や電力不足による停電対応としての蓄電池の重要性も広く認知されつつあります。弊社は、これら産業用蓄電池メーカーとして、より安全で安価な蓄電池を供給する責任を果たして行かなければなりません。

一方、自動車分野においても、地球温暖化防止のためCO₂削減目標が掲げられ、厳しい燃費基準を達成するために、ハイブリッド車やアイドリングストップ車の比率が年々大きくなってきています。これらの車種は、燃費向上のため蓄電池に貯められた電力を最大限に活用するため、蓄電池にとっては極

めて厳しい使用条件となり、従来に増して蓄電池の性能及び信頼性の向上が求められています。

このような環境下において、私たち古河電池は、昨年度、サイクルユース専用長寿命形制御弁式据置鉛蓄電池「FCP-1000形」¹⁾や環境配慮型自動車対応バッテリー「ECHNO【エクノ】シリーズ」²⁾を上市致しました。そして今年度は、長年研究を続けてきた次世代鉛蓄電池であるキャパシタハイブリッド型鉛蓄電池「ウルトラバッテリー」を産業用途、自動車用途に上市すべく、準備を進めております。また、産業用途として、安全性の高いリチウムイオン電池も開発中で、経済産業省プロジェクトである「北九州」と「けいはんな」におけるスマートグリッド実証プロジェクトに参画し、上記ウルトラバッテリーとともに実証を進めています。

私は就任に際し、社員に対し次のようなメッセージを発信しました。それは、「私たちは世の人々をエネルギーの不安から解放するために、新しい用途を開拓する「挑戦者」。優れた技術を世界中へと広げる「挑戦者」。そして既成概念にとらわれず、業界に新しい風をもたらす「挑戦者」である。」ということです。そして「挑戦者」としての行動の具現として、「初動力」、「変換力」、「失敗力」という3つのキーワードを提示しました。これを研究開発分野に当てはめてみれば、「初動力」とは他社に先駆けて新しい研究

巻頭言

挑戦者としての研究開発を目指して

テーマに着手することであり、「変換力」とは、それらの研究成果及び蓄積された技術をお客様の欲する形（製品）に具現化すること。そして「失敗力」とはチャンスを素通りさせることなく、失敗を恐れず積極的にトライし続けることになるかと思います。内海前社長は常々「研究開発は会社の礎である。」と申しておりましたが、建てるべき城（製品）に見合った無駄のない石垣（研究開発）であってこそ「会社の礎」たるものと信じて、今後も研究開発に注力して行く所存です。

エネルギーの常識をも変えんとする「挑戦者」としてのマインドを胸に、「世の中のニーズを感度良く察知し、失敗を恐れず、素早く商品化できる。」存在感のある会社を目指して、業界の発展と社会に貢献して参りたいと思いますので、引き続きご指導、ご鞭撻を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

- 1) 産業機器生産統括部 産業電池技術部, FBテクニカルニュース, No. 66, 59 (2011)
- 2) 市販営業部, FBテクニカルニュース, No. 68, 36 (2012)